



第39回国民文化祭 第24回全国障害者芸術・文化祭

「清流の国ぎふ」文化祭2024

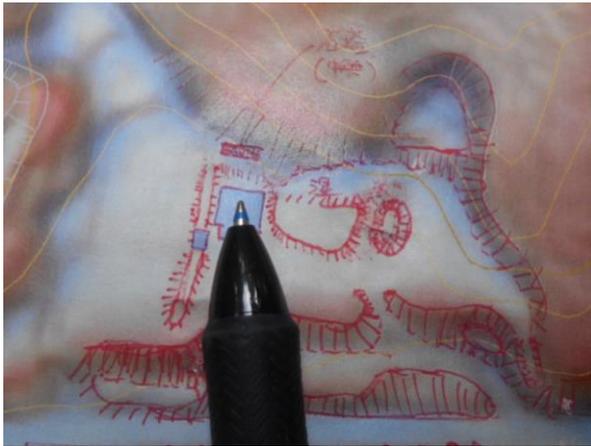
ともに・つなぐ・みらいへ ～清流文化の創造～

2024年10月14日(月・祝)～11月24日(日)

令和6年度岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告会 発表資料



願興寺廃寺跡（御嵩町）発掘調査の様子



地形観察図作成の様子



日焼遺跡（高山市）遠景

日時 令和6年11月23日（土） 13:00～15:45

会場 岐阜県博物館マイミュージアム棟3階 けんぱくホール

主催 岐阜県文化財保護センター

共催 岐阜県博物館

日程

| | |
|-------------|---|
| 12:30～13:00 | 受付 |
| 13:00～13:10 | 開会挨拶 岐阜県文化財保護センター所長 塚原 雅巳 |
| 13:10～13:50 | 事例発表Ⅰ 願興寺本堂の発掘調査(御嵩町:願興寺 ^{がんごうじはいじあと} 廃寺跡) 名古屋大学大学院教授 梶原 義実 氏 |
| 13:50～14:30 | 事例発表Ⅱ 岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書総括 岐阜県文化財保護センター主事 浅井 飛音 |
| 14:30～14:40 | 休憩・遺物見学 |
| 14:40～15:40 | 講演 「他地域との比較からみた岐阜県の古代寺院」 京都府立大学文学部教授 菱田 哲郎 氏 |
| 15:40～15:45 | 事務連絡 |

資料目次

| | |
|----------------------------|-------|
| 願興寺本堂の発掘調査 | 1～8 |
| 岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書総括 | 9～12 |
| 他地域との比較からみた岐阜県の古代寺院 | 13～23 |
| (参考) 令和5年度岐阜県埋蔵文化財発掘調査実施一覧 | 24 |

清流の国ぎふ憲章

～ 豊かな森と清き水 世界に誇れる我が清流の国 ～

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

知 清流がもたらした自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます

創 ふるさとの宝ものを磨き活かし、新たな創造と発信に努めます

伝 清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

平成26年1月31日 「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議

願興寺本堂の発掘調査

2024.11.23 岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告会

名古屋大学人文学研究科 梶原 義実

はじめにー願興寺の沿革と発掘調査の経緯ー

寺伝『大寺記』などによると…

光仁6年(815)、最澄による開基伝承
長徳2年(996)、一条天皇の勅願により整備
天仁元年(1108)、兵火により焼失
正治元年(1199)、頼朝・盛康により再興
元弘・建武年間、領主の庇護を失い荒廃
貞治元年(1362)、土岐頼康により修復
元龜3年(1572)、武田信玄の戦火で罹災
天正9年(1581)、民衆の力で再建
享保15年(1730)、『大寺記』作成

平成・令和の解体修理：礎石については旧の礎石をそのまま使用

⇒ 礎石が度重なる罹災で劣化しており、周囲を固化して強度を増す必要性
⇒ 礎石周りの掘削が必要となるため、事前の発掘調査が必要との判断
御嵩町と岐阜県の協議により、名古屋大学考古学研究室に打診

なぜ名古屋大学が？

調査を担当した梶原：古代寺院や古瓦の研究者
願興寺周辺からは飛鳥時代の古瓦が出土するが、基壇等古代の遺構や伽藍配置は不明。
⇒ 現本堂直下に古代の基壇が存在する可能性も。
御嵩町と協議し、礎石周りの他に、基壇の構築状況等を確認する調査区を設定。

1. 「願興寺廃寺」について

願興寺境内からは、飛鳥時代に遡る瓦の散布 ⇒ 東山道沿いの好地として寺院が造営
※前方後円墳などの大古墳がない地域であり、(西方の可児地域にはけっこうある)

古墳時代後期以降に発展した地域か？

伽藍配置等は不明。

軒丸瓦の形式から、7世紀後半頃と推定。天智朝まで遡る可能性も。

- ・輻線文縁有稜素弁八弁蓮華文軒丸瓦：
輻線文は新羅の瓦に多く、渡来系文様とされる。近江穴太廃寺などで近似例。
- ・複弁八弁蓮華文軒丸瓦：「川原寺式」と呼ばれる瓦で、美濃全域で数多く出土する形式。
壬申の乱にかかわる論功行賞とする説も(八賀晋氏)

- 奈良時代以降の瓦：線鋸齒文縁単弁八弁蓮華文軒丸瓦は、有稜素弁の退化形式とも。
おなじく御嵩町内の送木廃寺・伏見廃寺と同範か？
丸平瓦では、奈良時代以降の特徴をもつ瓦も出土 ⇒ 継続的な維持管理？

2. 願興寺本堂の発掘調査

- 第1次：2021年7月22日～25日

現基壇の断ち割り調査をおこない、基壇の造成過程および、基壇下層の状況を確認

現基壇の南・東・北に、それぞれ幅1mのトレンチを設定し、人力で掘削。

すべてのトレンチで、2時期にわたるタタキによる基壇造成が確認。

現基壇（天正期）の下層に、2時期の基壇修復。

上層基壇造成時に、礎石一列分の拡張？

さらにその下に古代瓦を含む造成土 ⇒ 中世以降の遺物を含まず、平安期頃の造成か。

炭層の検出：現基壇直下と、下層基壇の直下（古代整地土より上）の2層において、

それぞれ炭層のまとまった堆積を確認 ⇒ 寺伝に記される火災との関係は？

出土遺物：飛鳥時代に遡る平瓦・丸瓦。奈良時代の平瓦・丸瓦。

中世の山茶碗・陶磁器類。近世陶磁（灯明皿など）、古銭類。近代のものも。

- 第二次：2021年11月21日

周囲補強を実施するすべての礎石周りを調査。礎石周辺の炭層との切り合い関係を精査。

多くの礎石が、上層炭層を切る形で掘方を掘り、据え付けている状況が確認される。

⇒ 現本堂造営時に礎石を据え変えた可能性

3. 放射性炭素年代測定による分析

- 上層炭層2点、下層炭層2点の計4点を、株式会社パレオ・ラボに依頼し年代測定。

試料1（東 Tr 上層）：1328-1418年 試料2（北 Tr 上層）：686-774年

試料3（東 Tr 下層）：686-773年 試料4（南 Tr 下層）：548-584年

- 上層炭層の木材

試料1の年代からは、貞治元年（1362）の修復に伴うものか。

（試料2は古い年代が出ており、古材の再利用か？）

⇒ 元龜3年（1572）の火災による焼亡と整合

- 下層炭層の木材

試料3・4とも、飛鳥～奈良時代の古材であり、

願興寺廃寺の材を、奈良・平安期以降の修復にもちいた可能性

⇒ 天仁元年（1108）の火災による焼亡と整合

4. 出土遺物の分析（途中経過）

- 今回の調査では、軒瓦は出土せず。
おもに近世礎石の根固めとして、古代の丸平瓦が出土
二次移動後の出土ではあるが、比較的破片は大きく、
近傍からまとめて移動されてきたものと思われる。
- 平瓦のほとんどは桶巻づくり縦縄叩き平瓦
⇒ 出土量比的に、願興寺の主要瓦（単弁蓮華文系）に伴う？
- その中でわずかではあるが、桶巻づくり格子叩きの平瓦が出土
- 凸面を大きくカットする特徴的な技法（工人集団の癖？）が、
土岐市隠居山窯の2023年度調査で出土（現在、土岐市により遺物整理中）。
⇒ 一部の瓦は、隠居山窯から供給か。
- 同様の特徴は、坂祝町北野（雲埋）廃寺の瓦でも（現在、名古屋大学で遺物整理中）。
⇒ 中濃地域一円での瓦工人移動？

おわりに—本調査の成果—

本調査の成果と寺伝等の文献史料を照合し、願興寺の歴史を想定復元。

- 飛鳥時代（7世紀後半）の古瓦…願興寺廃寺の創建
一部の瓦は土岐市隠居山窯から供給か？
- 奈良～平安期頃に本堂下層で古瓦を含む整地土
…寺域の大規模な改変？ 木材は再利用？
- 飛鳥期木材の炭化材…天仁元年（1108）の火災による焼亡？
- 中世に2時期の基壇。山茶碗の出土…正治元年（1199）の再興などを示すか。
- 上層の炭層から、14世紀の炭化物…
貞治元年（1362）の修復・元龜3年（1572）の焼亡と整合
- 元龜焼亡後、中世基壇を再利用した現基壇で、礎石を据え変え本堂建立。

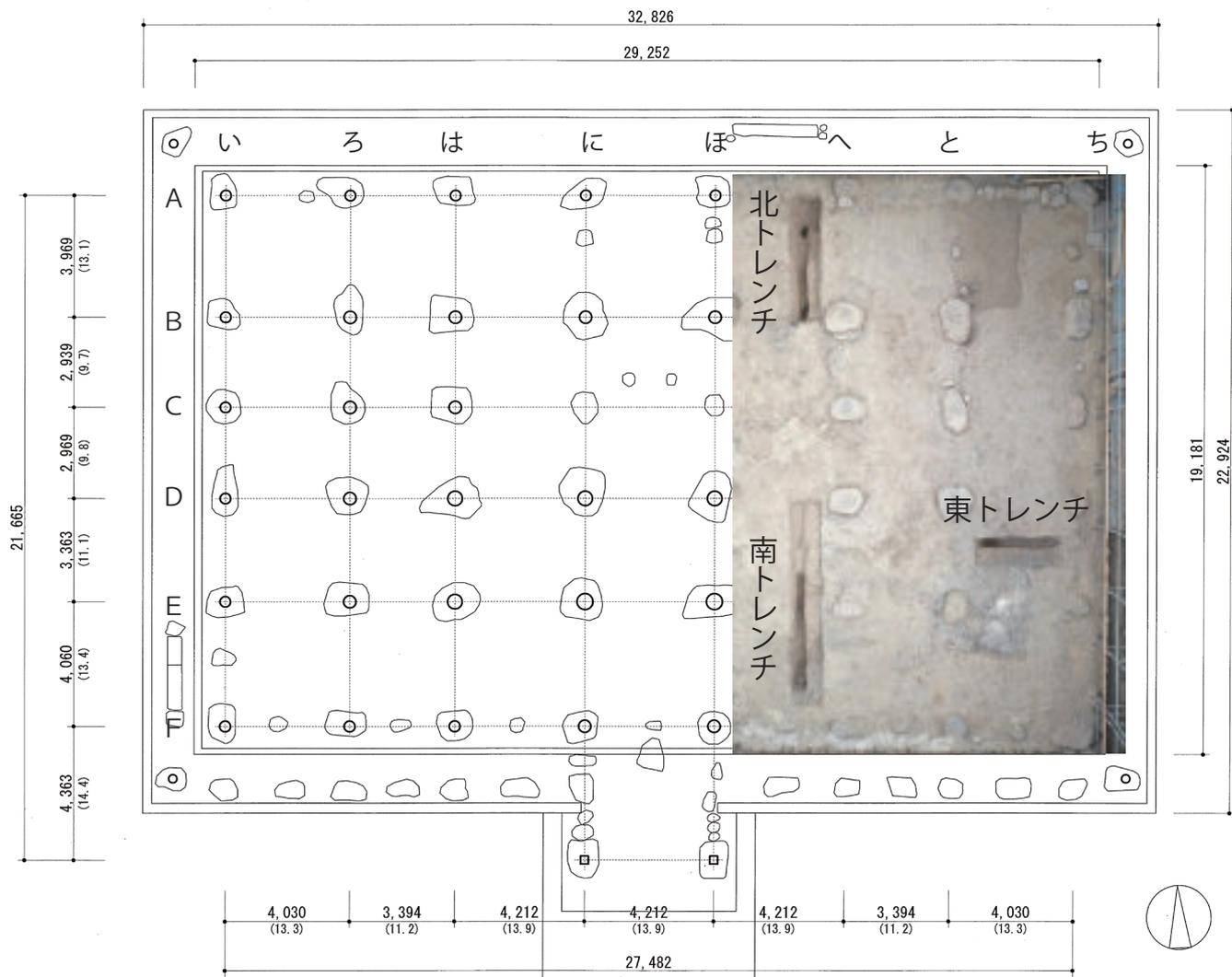


図1 願興寺基壇図および発掘調査区 (2021年7月次)

表1 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 (株式会社パレオ・ラボ測定)

| | $\delta^{13}\text{C}$ (‰) | 暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$) | ^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$) | ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲 | |
|----------------------|------------------------------|----------------------------------|---|---|--|
| | | | | 1 σ 暦年代範囲 | 2 σ 暦年代範囲 |
| PLD-44217 試料No. 1 | -23.72 \pm 0.15 | 555 \pm 19 | 555 \pm 20 | 1328-1336 cal AD (13.85%) 1396-1418 cal AD (54.42%) | 1325-1354 cal AD (34.81%) 1393-1422 cal AD (60.64%) |
| PLD-44218 試料No. 2 | -23.46 \pm 0.16 | 1258 \pm 20 | 1260 \pm 20 | 686-742 cal AD (64.81%) 762-764 cal AD (1.45%) 772-774 cal AD (2.01%) | 674-752 cal AD (73.39%) 757-775 cal AD (9.04%) 789-825 cal AD (13.01%) |
| PLD-44219 試料No. 3 | -24.53 \pm 0.21 | 1268 \pm 20 | 1270 \pm 20 | 686-743 cal AD (63.83%) 761-765 cal AD (3.20%) 772-773 cal AD (1.24%) | 671-775 cal AD (92.73%) 791-798 cal AD (1.53%) 812-818 cal AD (1.19%) |
| PLD-44220 試料No. 4 | -24.76 \pm 0.17 | 1517 \pm 21 | 1515 \pm 20 | 548-584 cal AD (68.27%) | 482-491 cal AD (1.40%) 537-603 cal AD (94.05%) |

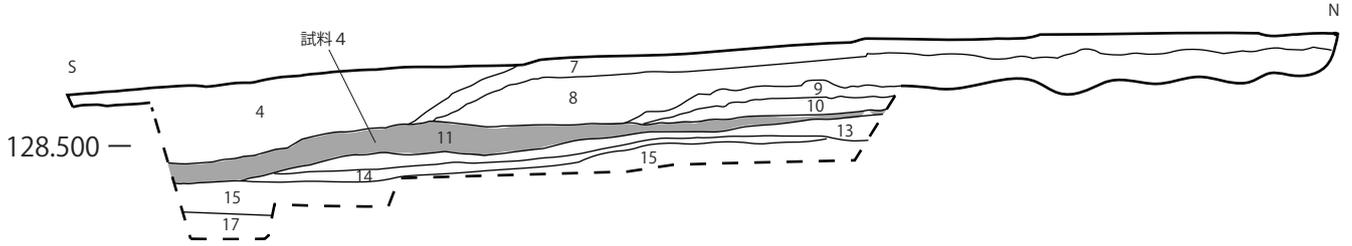
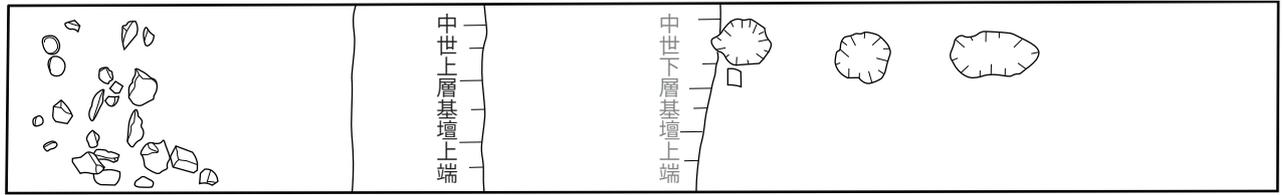
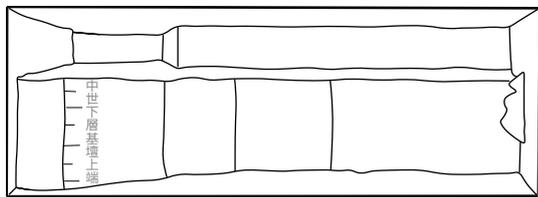


図2 南トレンチ平面図および西壁土層断面図 (1:40)



- 1 白色砂層 (近世基壇上面)
- 2 黒色炭層 (上層炭層)
- 3 白色土 (近世基壇土)
- 4 礫混じり暗黒灰色土 (山茶碗・近世陶器等含む)
- 5 礫混じり暗灰色土
- 6 礫混じり橙黒灰色土 (山茶碗等含む)
- 7 淡茶白色硬化面 (中世上層基壇タタキ)
- 8 礫混じり淡褐灰色土
- 9 茶白色硬化面 (中世下層基壇タタキ)
- 10 礫混じり褐灰色土
- 11 炭混じり黄白色粘質土 (下層炭層)
- 12 炭混じり橙色土 (下層炭層)
- 13 小礫混じり灰褐色土
- 14 黄白色シルト
- 15 褐灰色土 (瓦片等含む)
- 16 礫混じり明茶色土
- 17 礫混じり暗茶色土 (無遺物)

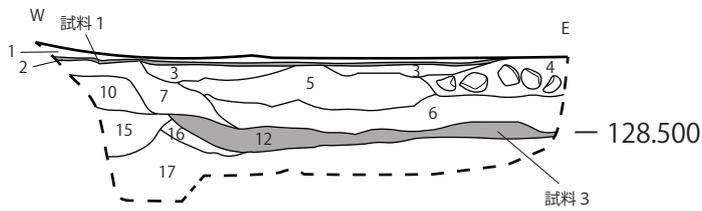


図3 東トレンチ平面図および北壁土層断面図 (1:40)

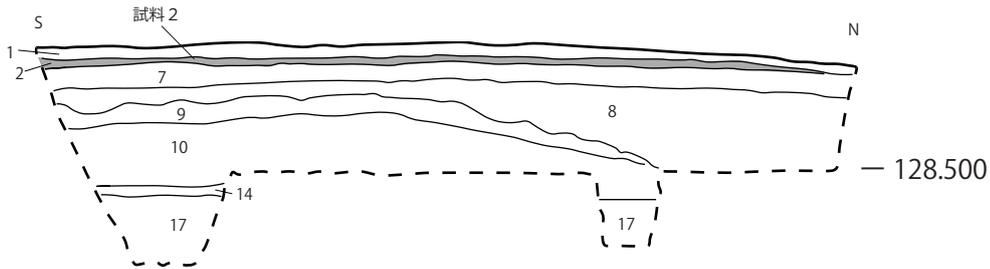
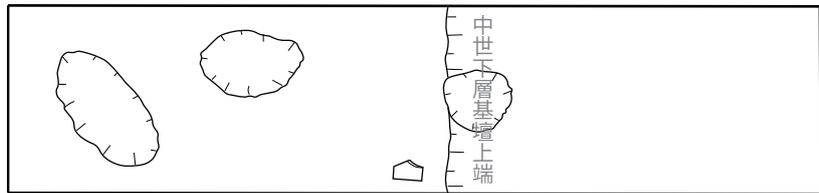


図4 北トレンチ平面図および西壁土層断面図 (1:40)

■ : 炭混じりの土層

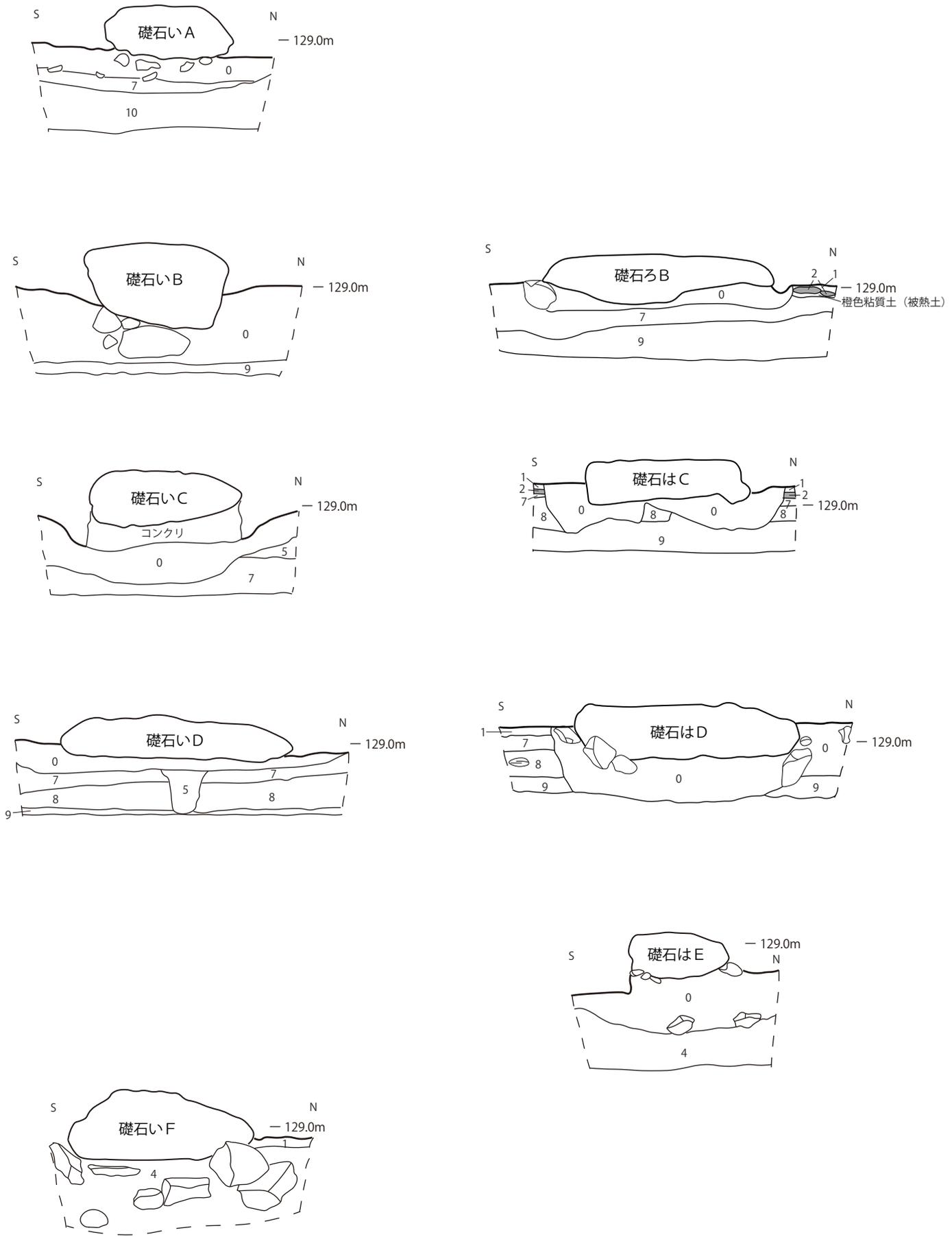
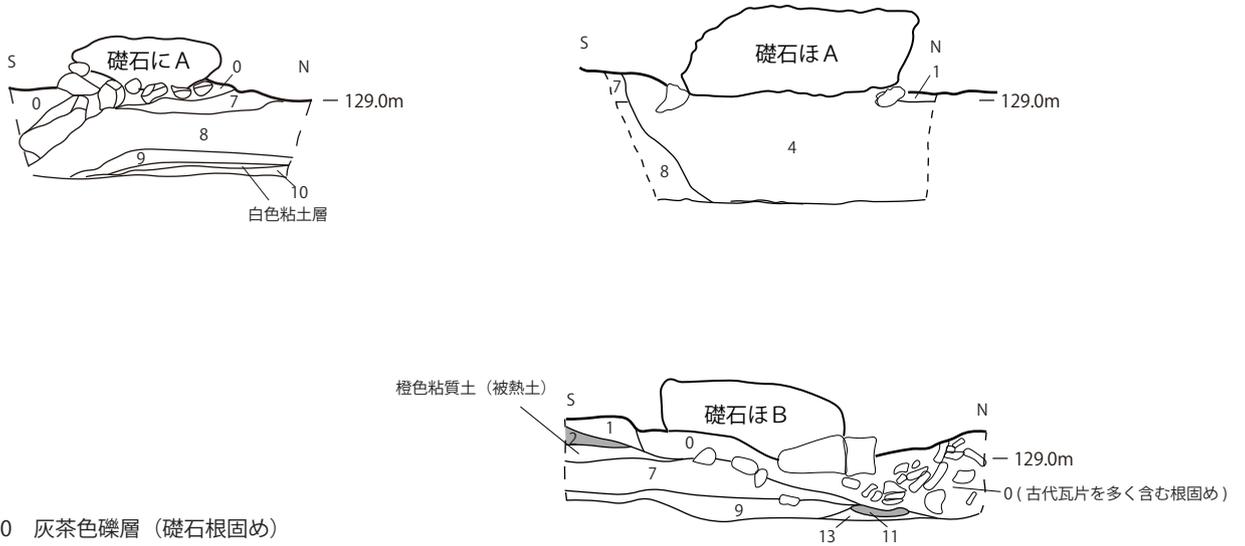


図5 礎石周辺断ち割り図1 (1:30)



- 0 灰茶色礫層 (礎石根固め)
- 1 白色砂層 (近世基壇上面)
- 2 黒色炭層 (上層炭層)
- 3 白色土 (近世基壇土)
- 4 礫混じり暗黒灰色土 (山茶碗・近世陶器等含む)
- 5 礫混じり暗灰色土
- 6 礫混じり橙黒灰色土 (山茶碗等含む)
- 7 淡茶白色硬化面 (中世上層基壇タタキ)
- 8 礫混じり淡褐灰色土
- 9 茶白色硬化面 (中世下層基壇タタキ)
- 10 礫混じり褐灰色土
- 11 炭混じり黄白色粘質土 (下層炭層)
- 12 炭混じり橙色土 (下層炭層)
- 13 小礫混じり灰褐色土
- 14 黄白色シルト
- 15 褐灰色土 (瓦片等含む)
- 16 礫混じり明茶色土
- 17 礫混じり暗茶色土 (無遺物)

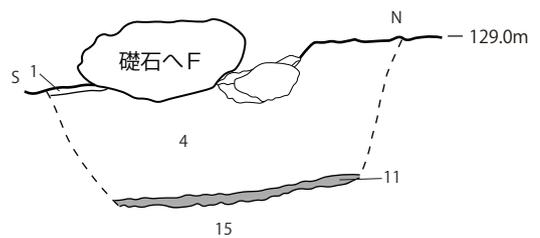
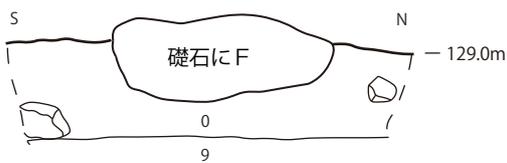
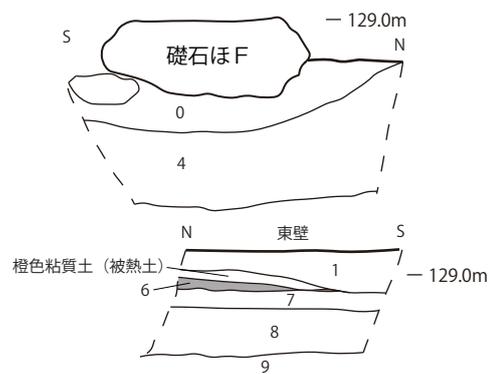


図6 礎石周辺断ち割り図2 (1:30)

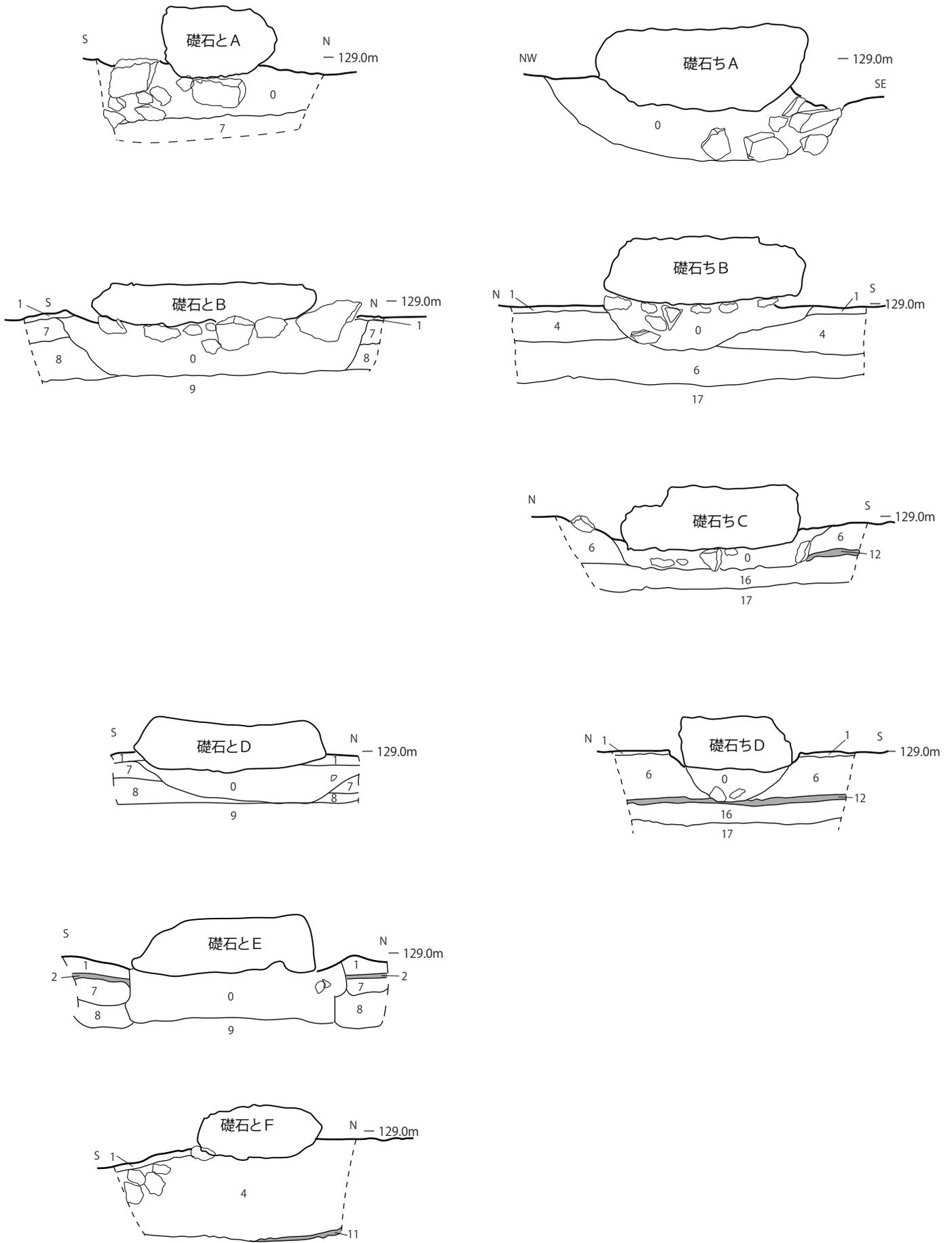


図7 礎石周辺断ち割り図3 (1:30)

※報告書作成中につき、図表の転載はすべてご遠慮ください。

岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書総括

令和6年11月23日

岐阜県文化財保護センター 浅井 飛音

1 調査の目的・方法

(1) 調査の目的

本事業は、開発行為等による破壊や消滅の恐れがある岐阜県内の古代・中世寺院の所在位置や時期、内容等を調査・整理することで、埋蔵文化財包蔵地として周知し、開発行為等との調整や保存整備・活用のための基礎資料を作成することを目的とする。

(2) 調査の方法

①基礎資料調査

自治体史等の文献資料、発掘調査・遺跡詳細分布調査資料（発掘調査報告書等）、各地域・関係社寺に残る口承・伝承等を含む資料を収集し調査票を作成した。各市町村教育委員会等が把握する情報の照会を行った。

②現地確認調査

基礎資料調査で得た情報を元に、寺院・寺院跡の現地確認を実施した。現存寺院では、ご住職やご親族に寺伝や移転歴、旧跡の残存状況等の聴き取り調査を実施した。

③地形観察図の作成

現地調査にて地形観察図作成範囲を確認し、センター内で対象地と作成範囲を検討した。その後現地でレーザー距離計や方位磁針を用いて作図した。この際、CS 立体図を元図に使用した。

④内容確認調査

地域において重要と考えられる寺院のうち、市町村等の了解が得られた寺院を対象に内容確認調査、測量調査、遺物分布調査を行った。

| 遺跡名（市町村） | 調査年度 | 調査方法 | 主な成果 |
|--|--------|-------------|--|
| 龍溪寺跡（中津川市） <small>りゅうけいじ</small> | H30 | 内容確認調査 | 石塔を伴う中世に遡る可能性のある土坑1基、被熱痕のある石列、掘方を有する礎石列等を確認。 |
| 旧横蔵寺跡（揖斐川町） <small>きゅうよくらじ</small> | H30 | 測量調査・遺物分布調査 | 中世の土器片を広い範囲で採集、本堂跡で9世紀後半の灰釉陶器片を採集。 |
| 寿楽寺廃寺跡（飛騨市） <small>じゅらくじはいじ</small> | H30・R1 | 内容確認調査 | 推定塔跡・推定金堂跡とされる2つの高まりに合計5か所のトレンチを設定。基礎地業の可能性のある堆積、塔廃絶後の堆積を確認。鴟尾や塑像か壁土と考えられる破片が出土。 |
| 太江区内（飛騨市） <small>たえくくない</small> | R1 | 遺物分布調査 | 7～8世紀代の須恵器を多く採集。在地産以外の須恵器が出土するエリア、故意に打ち欠いたと思われる須恵器片が多数出土するエリアを確認した。 |

⇒調査の結果、3,464か寺のうち1,918か寺の古代中世寺院を確認。127か所の地形観察図作成。

2 調査の成果

(1) 圏域ごとのまとめ

各分冊の巻末に、圏域ごとのまとめを掲載。

⇒基礎資料調査からの集計値の検討（郡域別寺院数、時期別の成立・転宗・移転・廃絶数、立地）
各立地に位置する代表寺院の特徴、地形観察図作成寺院跡の遺構の特徴、
古代・中世における寺院の様相や宗派の隆盛の概要

(2) 総括（第9章）

各圏域のまとめを集約し、岐阜県全体の古代・中世寺院の概要を示すことを目指した。

第1節 調査の意義と成果

第2節 県内古代・中世寺院の概観

- 1 寺院数（表1）
- 2 時期毎の成立時期等の検討（表2）
- 3 立地の状況（表3）
- 4 古代・中世寺院の分布（図1）

第3節 県内古代・中世寺院の様相

- 1 立地の検討
- 2 寺域の空間構造の検討

【岐阜県の山地に所在する寺院の特徴】

- 1) 本堂を最奥地や最高地に配置する、中世後半以降には直線参道を中心に寺域を拡大するなどの、他県の山寺で確認されてきた傾向が岐阜県でも概ねみられる。
- 2) 本堂を中心に多方向へ寺域を展開させる事例（大威徳寺跡、清峯寺跡）が、飛騨圏域に限って確認でき、地域性の1つとして評価できるのではないかということ。
- 3) 特に西濃圏域において、遺構の残存状況の良い寺院跡を多数確認できる。

- 3 宗派の拡大と変遷
- 4 白山信仰について
- 5 地域有力者との関係

第4節 今後の課題

3 今後の課題

- ・今回資料化できなかった山地所在寺院の存在の把握。
- ・自然崇拜・信仰遺跡（窟・巨岩等）との関連、歴史諸史料の把握、神仏習合時の寺院と神社の関係性など、様々な視点からの理解。
- ・山林に所在する遺跡の範囲と現状の把握

表1 県内寺院の成立状況

| 時代 | 圏域名 | 岐阜圏域 | 西濃圏域 | 中濃圏域 | 東濃圏域 | 飛騨圏域 | 小計 |
|-----------|-----|------|-------|------|------|------|-------|
| 飛鳥 | | 23 | 6 | 8 | 2 | 9 | 48 |
| 奈良 | | 30 | 33 | 28 | 3 | 8 | 102 |
| 平安 | | 46 | 79 | 36 | 12 | 8 | 181 |
| 古代(細分不能) | | 12 | 24 | 7 | 8 | 11 | 62 |
| 古代寺院小計 | | 111 | 142 | 79 | 25 | 36 | 393 |
| 鎌倉 | | 56 | 41 | 35 | 11 | 22 | 165 |
| 室町 | | 216 | 194 | 141 | 50 | 96 | 697 |
| 安土桃山 | | 44 | 50 | 69 | 34 | 12 | 209 |
| 中世(細分不能) | | 103 | 175 | 81 | 51 | 44 | 454 |
| 中世寺院小計 | | 419 | 460 | 326 | 146 | 174 | 1,525 |
| 古代・中世寺院合計 | | 530 | 602 | 405 | 171 | 210 | 1,918 |
| 参考寺院等 | | | | | | | |
| 近世(江戸) | | 172 | 187 | 148 | 124 | 31 | 662 |
| 近代以降等 | | 73 | 50 | 35 | 35 | 13 | 206 |
| 近世以降等寺院小計 | | 245 | 237 | 183 | 159 | 44 | 868 |
| 時期不明 | | 179 | 173 | 152 | 106 | 68 | 678 |
| 対象寺院合計 | | 954 | 1,012 | 740 | 436 | 322 | 3,464 |

注) 時代・時期は次のとおりとした。飛鳥(592年～)、奈良(710年～)、平安(794年～)、鎌倉(1185年～)、室町(1333年～)、安土桃山(1573年～)、江戸(1603年～)。なお、飛鳥時代から平安時代を古代、鎌倉時代から安土桃山時代を中世とし、明治時代以降は寺院以外のものを含めて近代以降等とした。

表2 時期別・事象別の成立数

| 内容 | 古代 | | | | | | | | | | 中世 | | | | | | | 近世以降 | | | 合計 | | |
|-------|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|----|-------|
| | 700 | 800 | 900 | 1000 | 1100 | 1200 | 1300 | 1400 | 1500 | 1600 | 1700 | 1800 | 1900 | 2000 | 2100 | 2200 | 2300 | 2400 | | | | | |
| 成立 | 36 | 82 | 25 | 62 | 11 | 16 | 24 | 5 | 5 | 10 | 51 | 53 | 45 | 56 | 73 | 45 | 228 | 224 | 254 | 236 | 180 | 78 | 1,799 |
| 転宗 | | | | 3 | 1 | 1 | | | | | 1 | 37 | 14 | 16 | 11 | 11 | 151 | 68 | 49 | 60 | 42 | 15 | 480 |
| 移転 | | | 2 | 2 | 1 | | | | 1 | 1 | 2 | 3 | 8 | 7 | 11 | 6 | 35 | 46 | 118 | 109 | 123 | 62 | 537 |
| 廃絶(火) | | | | | | 2 | 1 | | | 2 | 4 | 1 | 2 | 7 | | 1 | 8 | 18 | 97 | 9 | 7 | | 159 |
| 廃絶(他) | | | | | 1 | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | | 2 | 4 | 9 | 5 | 5 | 4 | 33 |

注) (火)は火事による寺院の廃絶、(他)は火事以外の理由による寺院の廃絶を表す。

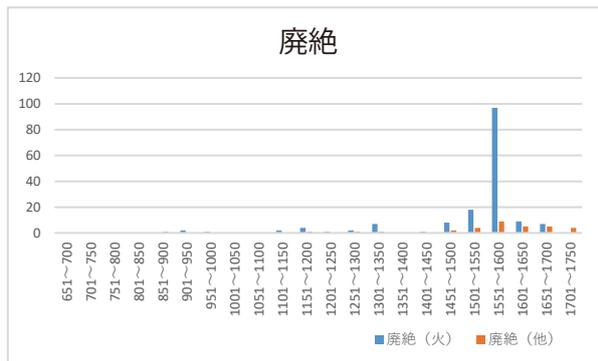
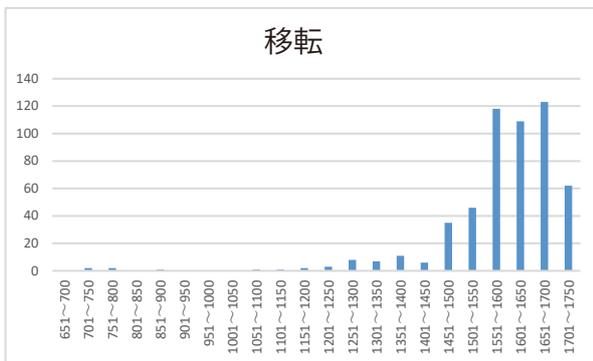
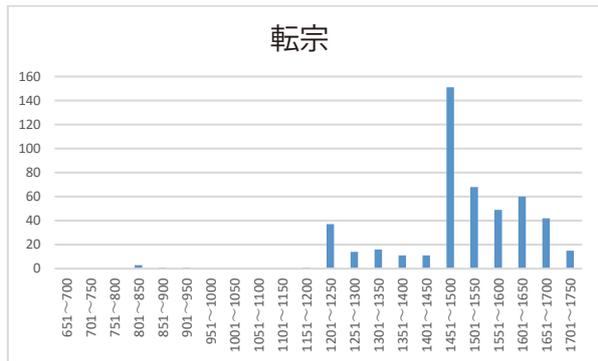
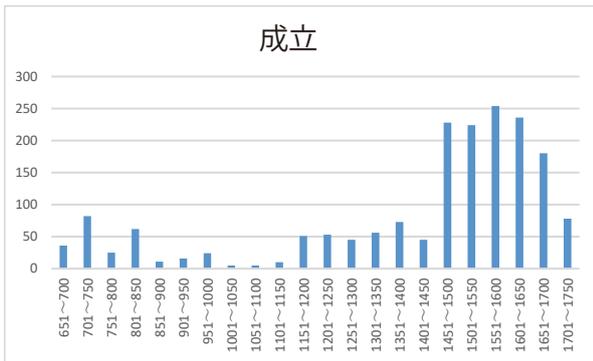


表3 時期別・立地別の成立数

| 西暦 | 700 | 800 | 900 | 1000 | 1100 | 1200 | 1300 | 1400 | 1500 | 1600 | 1700 | 合計 | | | | | | | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 平地 | 24 | 20 | 7 | 27 | 3 | 3 | 9 | | 1 | 5 | 16 | 23 | 14 | 14 | 24 | 18 | 112 | 106 | 133 | 172 | 148 | 75 | 954 |
| 山麓 | 5 | 19 | 6 | 4 | 3 | 1 | 2 | | | 1 | 11 | 2 | 12 | 15 | 24 | 12 | 47 | 59 | 100 | 84 | 88 | 38 | 533 |
| 山腹・山頂 | 2 | 6 | 7 | 6 | 1 | 2 | 5 | 3 | 2 | 1 | 3 | | 4 | 5 | 9 | 5 | 2 | 3 | 15 | 9 | 13 | 4 | 107 |
| 不明 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 4 | 3 | 1 | 3 | 1 | | 15 |

※山麓から山腹にかけて存在する寺院は山腹に含めた。

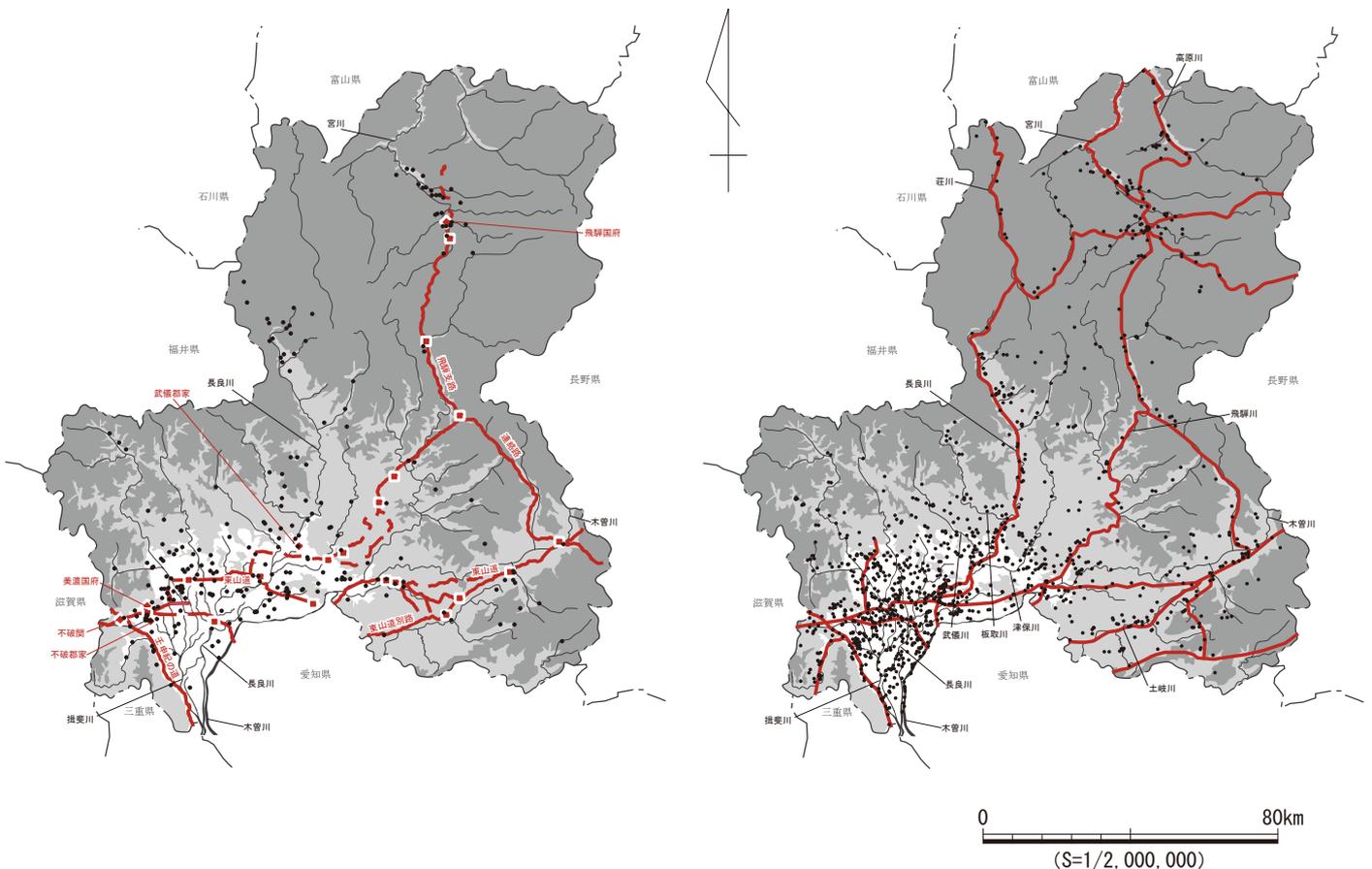
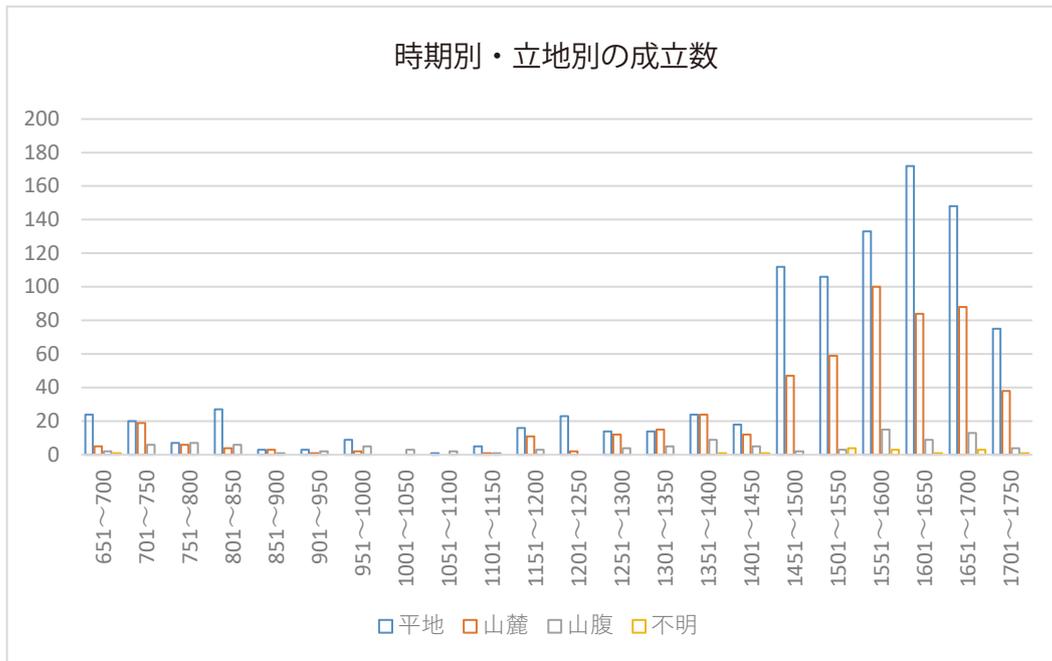


図1 岐阜県寺院分布図

他地域との比較からみた岐阜県の古代寺院

京都府立大学文学部

菱田哲郎

岐阜県古代・中世寺院跡総合調査の成果では、具体的な個々の寺院についての情報を集積したうえで、総括として、時期別の推移や立地の状況、また寺院規模などについて検討されました。結果として3000ヶ寺以上の寺院を対象とし、伝承も含め1900ヶ寺の古代中世寺院を抽出し、とりわけ実地の踏査による現況確認により、多大な成果が上がっています。こうした成果を受けて、古代の寺院について見えてきたことを中心にその意義を探ってみましょう。畿内をはじめ列島内諸地域の動向とも共通する点が多くありますので、寺院建立や修理の背後にある政策とも関連付けながら、寺院が建立されることの意義を岐阜県の古代寺院から明らかにしていきたいと思えます。

1 飛鳥・白鳳の諸寺と護国仏教の流れ

寺院造営の波と仏教の普及

地方豪族層の寺院造営 檀越^{だんおつ}の利権 寺田などの獲得

郡家隣接寺院の存在 郡司層が檀越 →郡司も必ずしも固定ではない

交通との関係 陸路と海上交通 僧侶の都鄙間交通^{とひ}+交通への仏教の救済
寺院の規制と定額寺^{じょうがくじ}

霊亀2年の寺院併合令 実態のない寺院の整理 資財の管理と監査

史料1 『続日本紀』霊亀二年(716)五月庚寅条

詔曰。「崇=飾法蔵、肅敬為_レ本。營=修仏廟、清浄為_レ先。今聞、諸国寺家、多不如_レ法。或草堂始闢、争求=額題、幢幡僅施、即訴=田畝。或房舎不_レ修、馬牛群聚、門庭荒廢、荊棘弥生。遂使=無上尊像、永蒙=塵穢、甚深法蔵、不_レ免風雨。多歴=年代、絶無=構成。於_レ事斟量、極乖=崇敬。今故併=兼数寺、合成=一区。庶幾、同_レ力共造、更興=頽法。諸国司等、宜明告=国師衆僧及檀越等、条=録部内寺家可_レ合并財物、附_レ使奏聞。又聞、諸国寺家、堂塔雖_レ成、僧尼莫_レ住、礼仏無_レ聞。檀越子孫、惣=撰田畝、專養=妻子、不_レ供衆僧。因作=諍訟、誼=擾国郡。自_レ今以後、嚴加=禁断、其所有財物田園、並須国師衆僧及国司檀越等、相对檢校、分明案記、充用之日、共判出付。不_レ得_レ依旧檀越等専制。(下略)」

→実態か否かの議論 奈良時代における寺院の補修から判断

定額寺制の成立 霊亀2年の詔勅を受けてか 「額題を求める」と関連?

国師・国司の規制と補助 →存続していく寺院の寺格

史料2 『続日本紀』天平勝宝元年(749)七月乙巳条

定=諸寺墾田地限。大安、薬師、興福、大倭国法華寺、諸国分金光明寺、寺別一千町。大倭国分金光明寺、四千町。元興寺、二千町。弘福、法隆、四天王、崇福、新薬師、建興、下野薬師寺、筑紫観世音寺、寺別五百町。諸国法華寺、寺別四百町。自_レ余定額寺、寺別一百町。

寺額の内容 法号に基づく寺名 地名と法号：法隆寺＝斑鳩寺
 岐阜県内の事例 弥勒寺＝武儀大寺 中林寺＝厚見寺（瑞龍寺）
 護国仏教の流れ 金光明経と四天王 7世紀中頃から
 持統朝の変化 正月の諸国の金光明経読誦の開始 恒例行事 諸国の正税帳
 史料3 『日本書紀』持統八年（694）五月癸巳条（11日）
 以＝金光明経一百部送置諸国。必取＝毎年正月上玄読之。其布施以＝当国官物充之
 史料4 『日本書紀』持統十年（696）十二月己巳条（1日）
 勅旨、縁読＝金光明経、毎年十二月晦日、度＝浄行者一十人。
 寺院の変化 国府所在郡の寺院の整備 僧房の整備
 播磨国府と辻井廃寺 丹波国府と観音芝廃寺 近江国府と南滋賀廃寺
 美濃国の場合 国府近傍の寺院 宮代廃寺（垂井町）と宮処寺跡（垂井町）
 史料5 『続日本紀』聖武天皇天平十二年（740）十二月癸丑条（1日）甲寅条（2日）
 癸丑朔、到＝不破郡不破頓宮。甲寅、辛＝宮処寺及曳常泉。
 聖武朝の諸国仏教政策 神亀5年（728）のから諸国への最勝王経の配布
 →天平13年（741）3月24日の国分寺建立の詔勅

III 国分寺の造営と僧侶の活動から

国分寺の活動 正月の金光明会・夏安吾^{げあんご}などの年中行事 幢幡^{どうぼん}の設置
 僧房の設置 定員は20名 美濃国分寺 三面僧房
 国師院^{こくし}の立地 国師の定住 美濃国分寺は？ 寺域東北の掘立柱建物
 国内寺院の監査 国府近傍の寺院の役割を踏襲 宮代廃寺と宮処寺跡
 山林修行の開始 世俗から隔離された浄所 近江国分寺僧の最澄と比叡山
 丹後国分寺と成相寺（宮津市） 国分寺成立以前の国府周辺寺院との関係
 播磨国分寺と峰相山鶏足寺・書写山円教寺・増位山随願寺 8世紀前半の創始
 尾張国分寺と大山廃寺（小牧市） 国分寺以前から存在か
 美濃国の山林寺院 国分寺を起点として
 元円興寺跡 国分寺近傍の山林寺院 延暦期の創建伝承 金生山明星輪寺も
 横蔵寺 延暦20年（801）の創建伝承 最澄と薬師如来像
 円山山頂近くには旧境内 泉と池の存在
 多芸七坊^{たぎ} 中世に隆盛する濃尾平野西端の山寺群
 栗原九十九坊跡や柏尾廃寺跡が古代に遡る
 →国分寺僧の関与も考えられるのでは？
 中世山岳寺院の隆盛の起点：国分寺や国府近傍の白鳳寺院にある ←播磨・丹後の例

IV 古代山寺の創始と実態

飛驒国分寺 飛驒国の山寺の成立を考える重要な材料
 日焼遺跡と三枝城下層遺跡 飛驒国分寺の北方5km
 いずれも8世紀後半の土器が出土 日焼遺跡は10世紀の仏堂も

→飛騨国分寺僧の山林修行の場

光寿庵 石橋廃寺・名張廃寺と同範 白鳳期

→国分寺に先行する山寺 国府近傍の寺院の可能性

地方在住僧侶の存在 飛騨配流の新羅僧・

史料6 『日本書紀』持統天皇即位前紀朱鳥元年（686）十月丙申条（29日）

詔曰。「皇子大津謀反、誑誤吏民・帳内不_レ得_レ已。今皇子大津已滅、從者当坐_二皇子大津_一者皆赦之。但礪杵道作流_二伊豆_一。」又詔曰、「新羅沙門行心、与_二皇子大津謀反_一。朕不_レ忍_二加法_一、徒_二飛騨国伽藍_一。」

→飛騨国伽藍はどこか？ 国分寺以前 国府の法会をおこなう寺

国分寺以前の山寺の成立事例として重要

桓武朝における画期 山寺の拡大の契機

美濃には3カ所の定額寺

一乗山菩提寺 国府所在の垂井郡の菩提山の麓 空海 天長元年

岩井山延算寺 山県郡の長良川北岸の山中 最澄 延暦24年

谷汲山華嚴寺 大野郡の名刹

新設された山寺がほどなくして定額寺に列せられていく →定額寺制度の転換

岐阜県古代中世寺院調査の成果 多くの山寺の詳細が明らかに

- ・採集遺物により時期が遡る例も多い 古代山寺の見方を一変
- ・保存状態のよい山寺の確認 水場や池などの要素が判明
- ・寺院の継承関係の追跡 古代から中世への発展 寺伝の内容も再評価へ

参考文献

上原真人「平地寺院と山林寺院」『仏教芸術』265号、2002年

今里幾次・大谷輝彦「辻井廃寺」『姫路市史』第7巻下、姫路市、2010

大垣市教育委員会『史跡美濃国分寺跡保存活用計画』、同委員会、2020年

大西貴夫 2020『毛原廃寺一県道上笠間八幡名張船道路改良工事に伴う発掘調査報告書一』、奈良県立橿原考古学研究所

加中雅章編『栗原九十九坊跡』、岐阜県文化財保護センター、2020年

河森一浩『成相寺境内』、宮津市教育委員会、2015年

岐阜県文化財保護センター『岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書』、同センター、2023年

久保智康「北陸の山岳寺院」『考古学ジャーナル』382、1994年

鈴木元「元円興寺跡」『大垣市遺跡詳細分布調査報告書 解説編』大垣市教育委員会、1997年

中島和哉編『竜泉寺廃寺跡分布測量調査報告書』、養老町教育委員会、2016年

菱田哲郎「定額寺の修理と地域社会の変動」『仁明朝史の研究』、思文閣出版、2010年

菱田哲郎「遺跡からみた古代寺院の機能」『シリーズ古代史をひらく 古代寺院』、岩波書店、2019年

藤井治左衛門「円興寺旧址を探る」『岐阜史学』23号、1958年

藤岡孝司・妹尾周三「安芸国分寺」『国分寺の創建 思想・制度編』、吉川弘文館、2011年

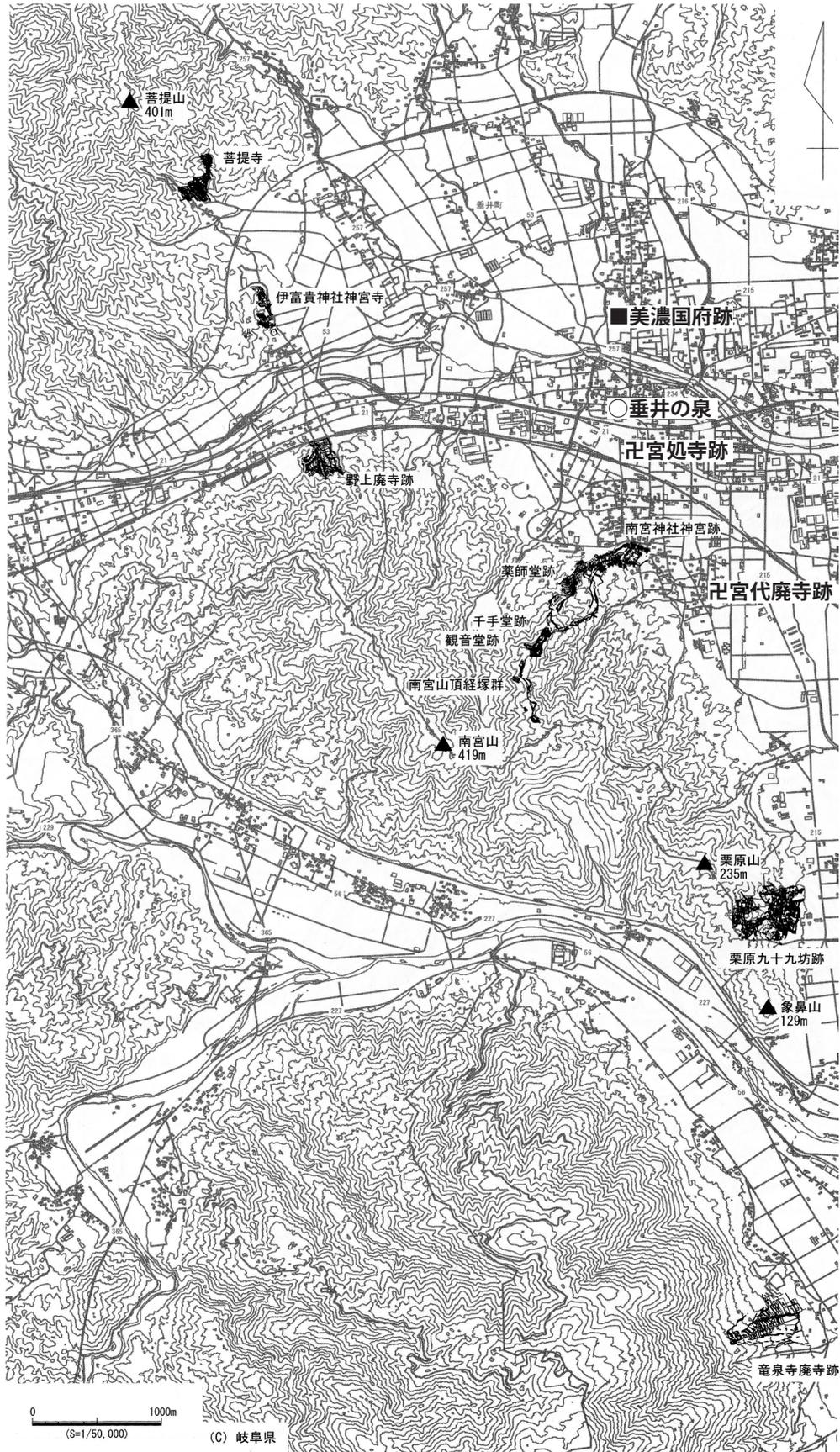


図1 国分寺西方の寺院跡 (『岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書』)



図2 美濃国府周辺の寺院（大垣市教育委員会 2020）



図3 宮代廃寺跡（左）宮処寺跡（右）

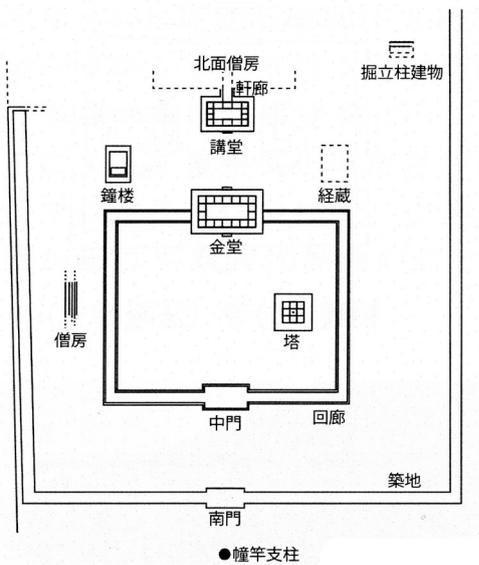


図4 美濃国分寺跡の伽藍（大垣市教育委員会 2020）

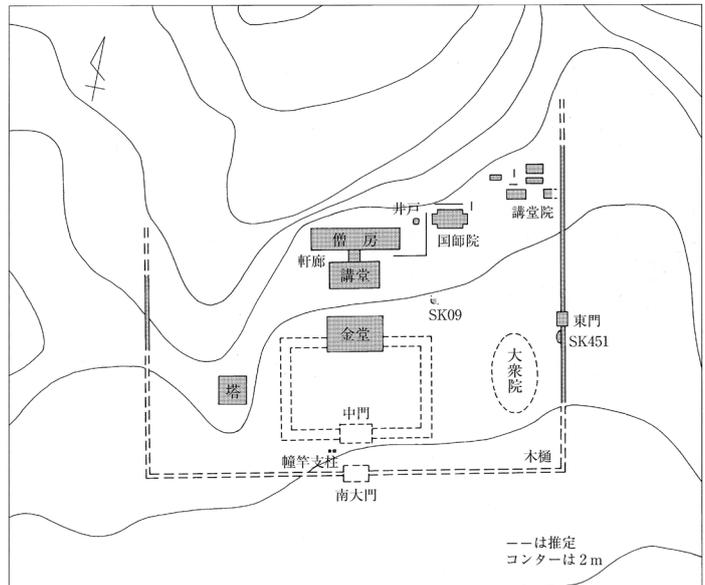


図5 安芸国分寺跡の伽藍（藤井ほか 20115）



図6 丹後国分寺と成相寺境内

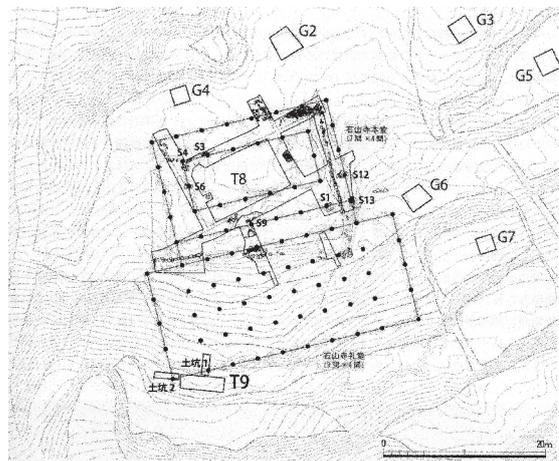


図7 成相寺境内の旧本堂(右)とそこからの景観(左)(河森ほか 2015)

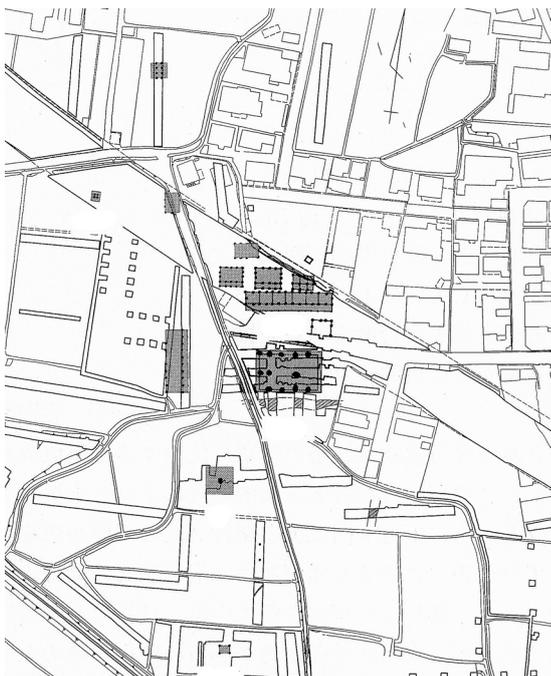


図8 姫路市・辻井廃寺跡(今里ほか 2010)



図9 播磨国府周辺の寺院

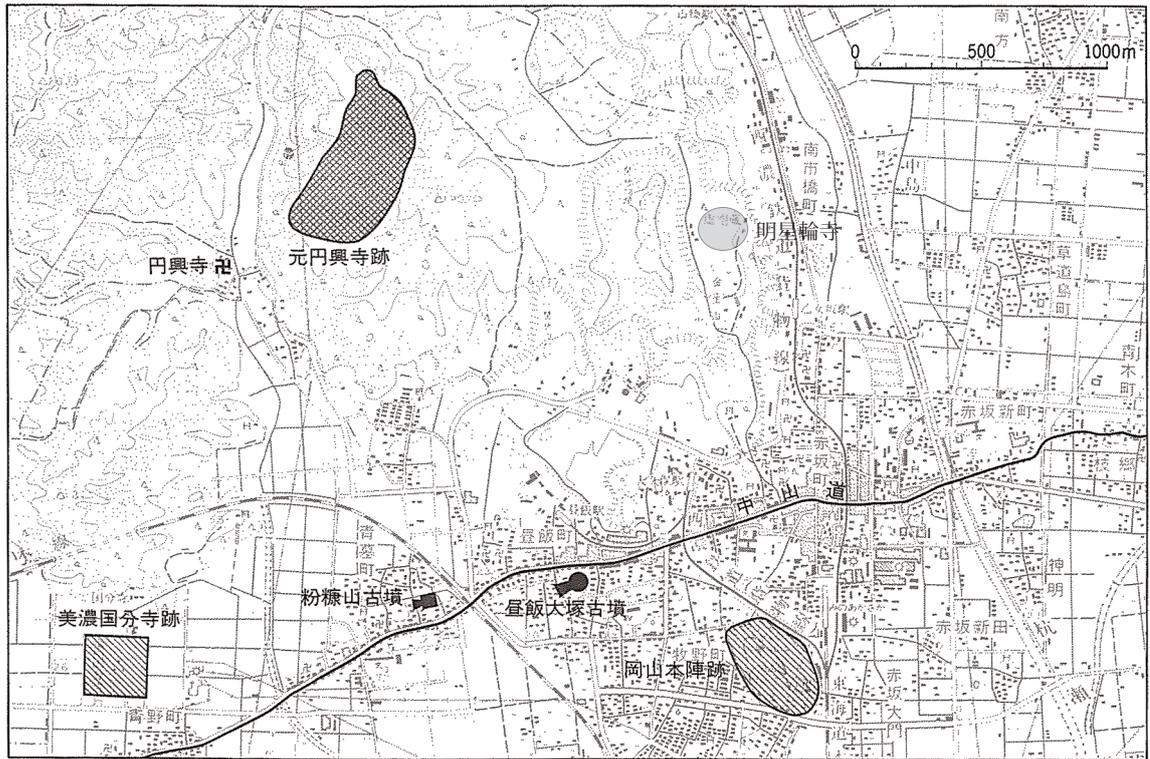


図 10 美濃国分寺と元円興寺・明星輪寺

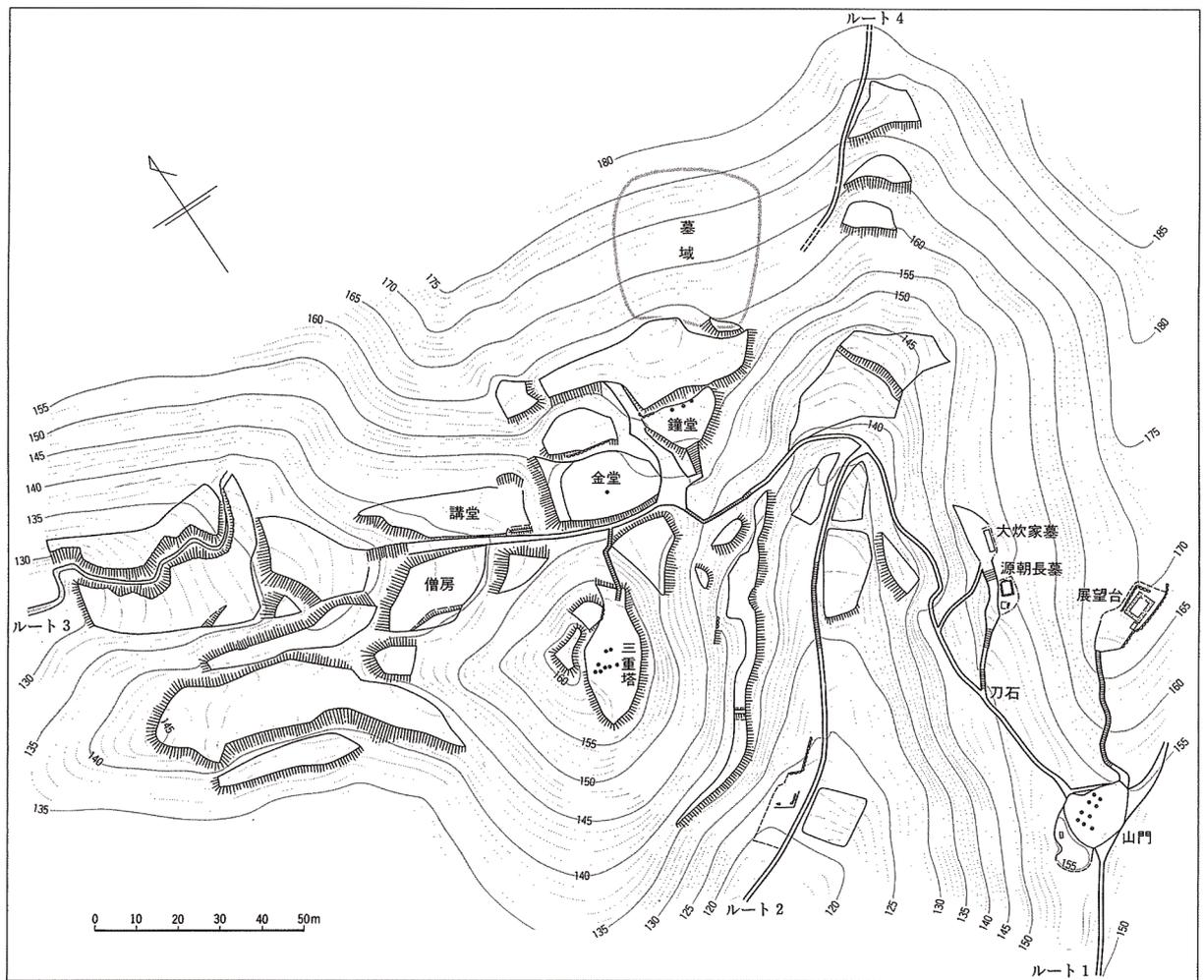


図 11 元円興寺の伽藍（建物は藤井治左衛門による推定）

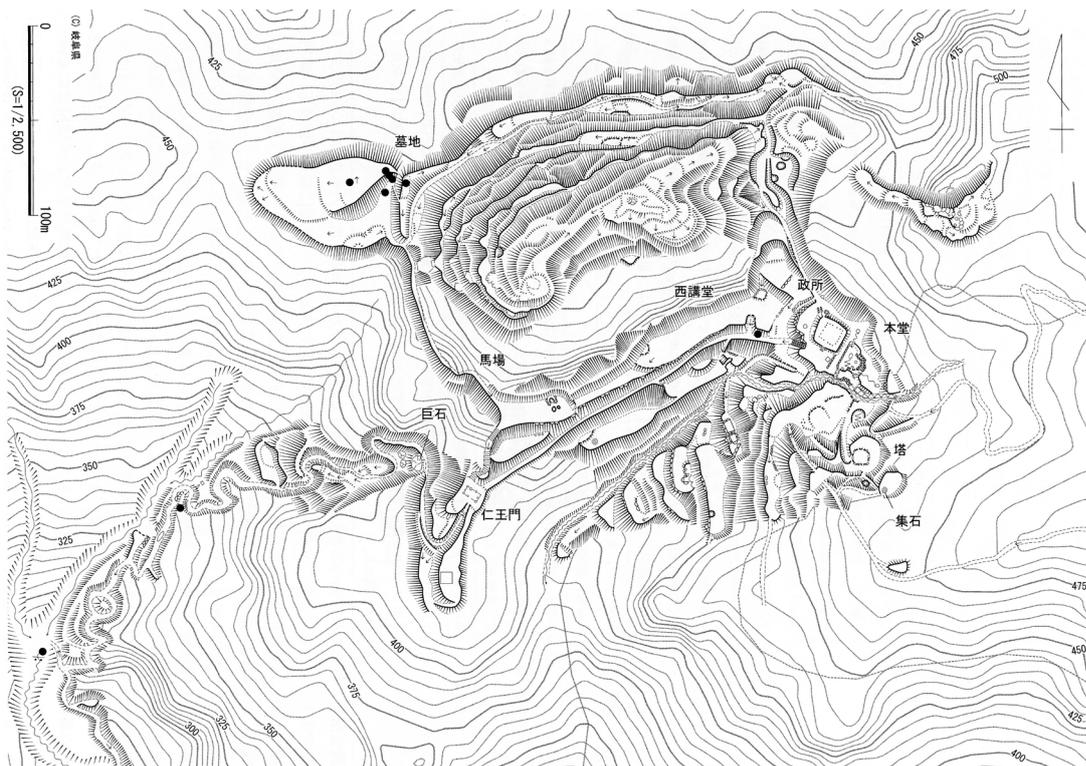


図 12 横蔵寺旧境内の伽藍（『岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書』）

表 1 多芸七坊の寺院一覧（中島編 2016）

| 遺跡名及び寺院名 | 所在地 | 性格 | 立地 | 古代 | | 中世 | | |
|-----------------|-----|-------------|---------------------|---------------------|------------------------------|---------------------------|--------------------|----------------|
| | | | | 尾野 V～VI期 尾野 2000 | 斎藤猿投案 第VI～VII期 齋藤 1995 | 山茶碗 第4～6型式期 藤澤 1994 | 古瀬戸中・後期 藤澤 2005 | 大塚期 藤澤 2005 |
| 栗原九十九坊跡 | 垂井町 | 寺院跡 城館跡 | 丘陵・下位段丘面 | ※詳細不明 | | | | |
| 竜泉寺廃寺跡 | 養老町 | 寺院跡 | 中位段丘面・下位段丘面・ 扇状地 | | | ・ | ・ | |
| 喜勢遺跡 (勢至寺跡) | 養老町 | 寺院跡 生産遺跡 | 中位段丘面・下位段丘面・ 扇状地 | | | △ | ・ | ・ |
| 柏尾廃寺跡 | 養老町 | 寺院跡 | 山地・中位段丘面・下位 段丘面 | △ | ・ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 養老寺 | 養老町 | - | - | ※詳細不明 | | | | |
| 薬師山遺跡 (光明寺跡) | 養老町 | 寺院跡 | 山地・下位段丘面 | | ・ | △ | ・ | |
| 藤内寺跡 | 海津市 | ? | 山地・中位段丘面・下位 段丘面 | ※詳細不明 | | | | |

・は1～4片、△は5～9片、○は10～14片、◎は15片以上

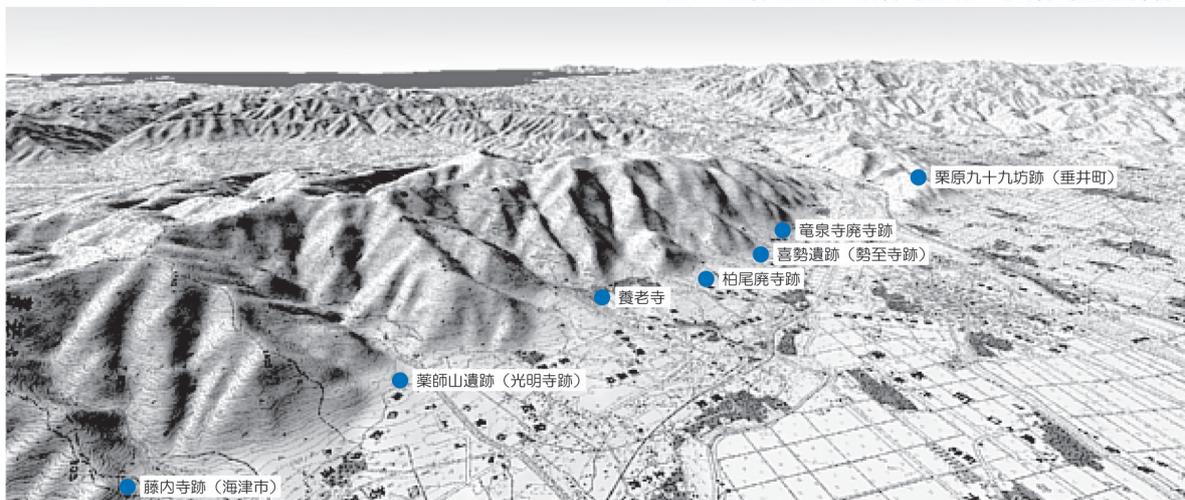


図 13 多芸七坊の寺院鳥瞰図（中島編 2016）



図14 栗原九十九坊跡の全体図 (加中 2020)

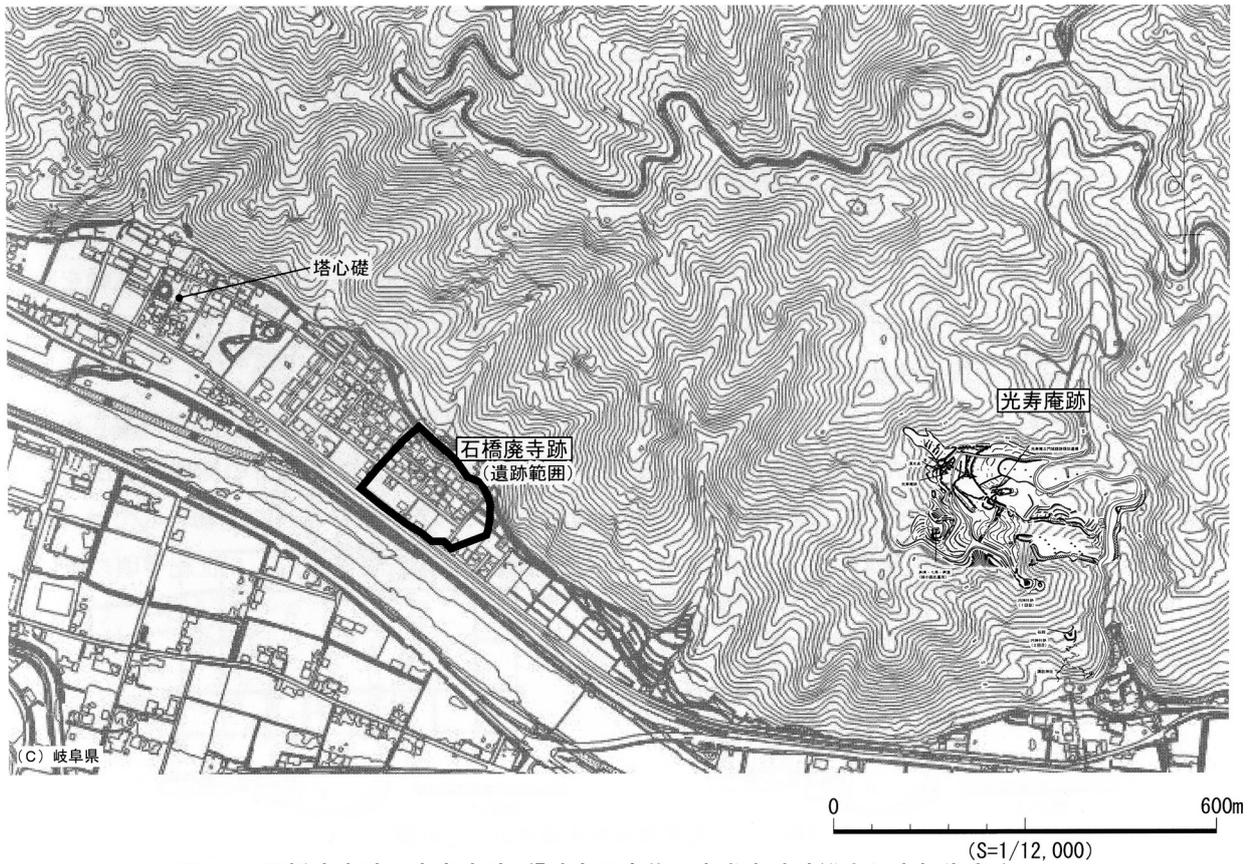


図 15 石橋廃寺跡と光寿庵跡（『岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書』）

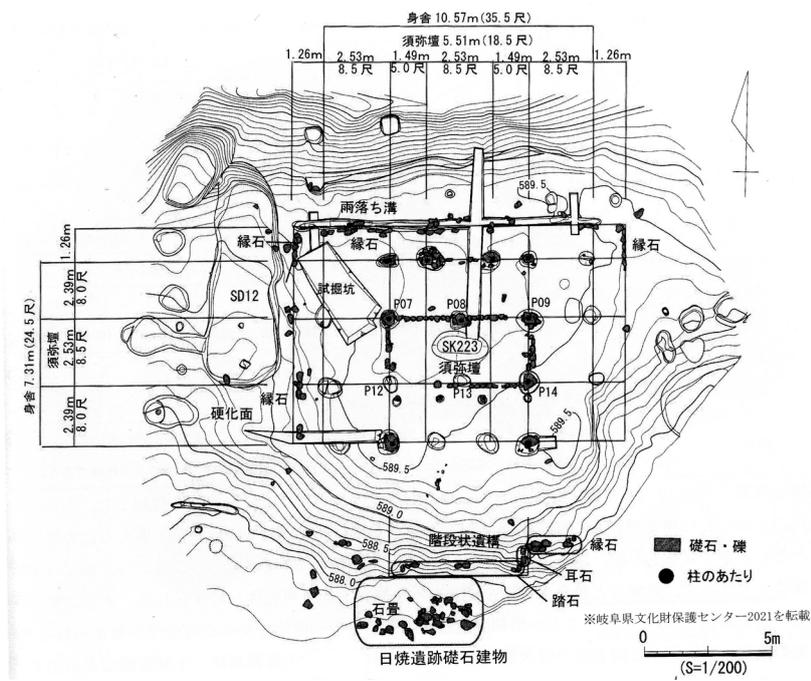


図 16 日焼遺跡石橋廃寺跡と光寿庵跡（『岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書』）

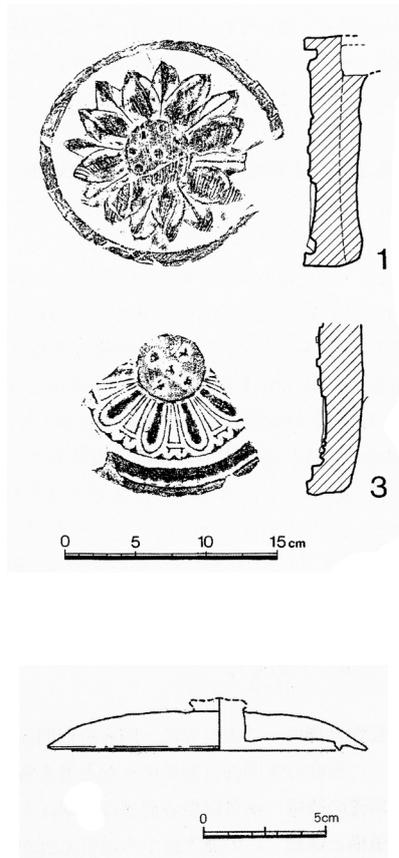


図 17 石橋廃寺跡の瓦と光寿庵跡の土器（『岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書』）

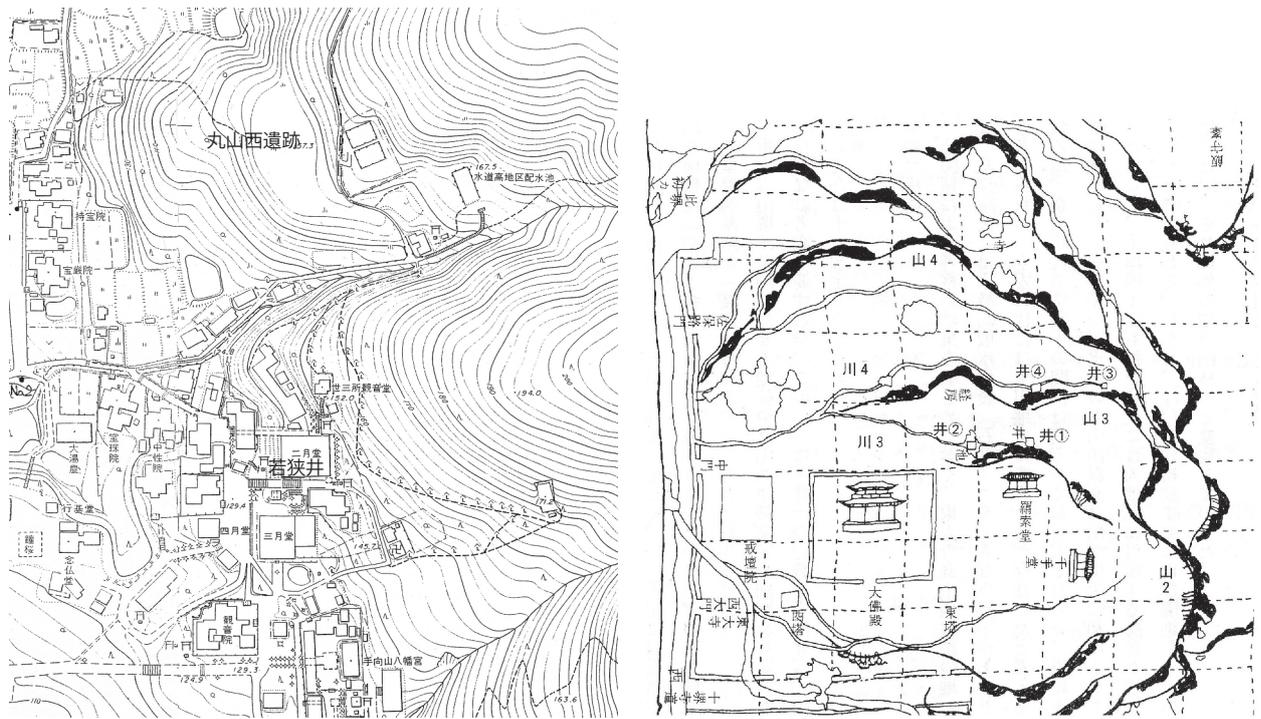


図 18 東大寺の現況と「山堺四囲至図」の表現

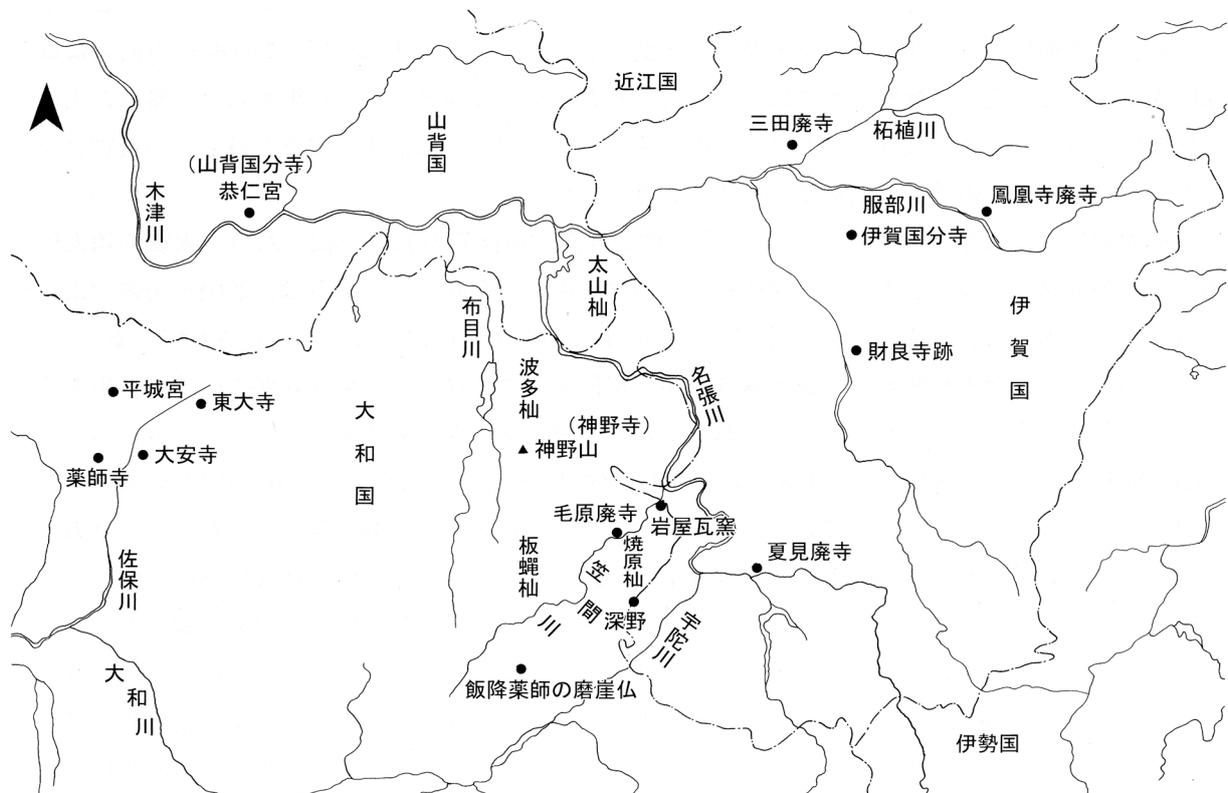


図 19 毛原廃寺の周辺 (大西編 2020)

(参考) 令和5年度岐阜県埋蔵文化財発掘調査実施一覧

| 通番 | 所在地 | 遺跡名 | 時代 | 種類 | 調査主体 |
|----|------|----------------|-------|-----------------|----------------------|
| 1 | 岐阜市 | 岐阜城跡 | 中世 | 城館跡 | 岐阜市ぎふ魅力づくり推進部文化財保護課 |
| 2 | 岐阜市 | 芥見町屋遺跡 | 縄文～近世 | 散布地・集落跡・生産遺跡・道路 | 岐阜県文化財保護センター |
| 3 | 土岐市 | 隠居山須恵器窯跡 | 古代 | 生産遺跡 | (公財)土岐市文化振興事業団 |
| 4 | 各務原市 | 鵜沼古市場遺跡 | 奈良～近世 | 集落跡 | 各務原市教育委員会文化財課 |
| 5 | 可児市 | 柿田遺跡 | 中世 | 集落跡 | 可児市経済交流部歴史資産課 |
| 6 | 可児市 | 美濃金山城跡 | 中世 | 城館跡 | 可児市経済交流部歴史資産課 |
| 7 | 可児市 | 青木神社前遺跡、宮之脇古墳群 | 縄文・古墳 | 散布地・古墳 | 可児市経済交流部歴史資産課 |
| 8 | 本巣市 | 船来山古墳群 | 古墳 | 古墳 | 本巣市教育委員会社会教育課 |
| 9 | 関ヶ原町 | 不破関跡 | 古代 | 官衙跡 | 名古屋大学大学院人文学研究科考古学研究室 |
| 10 | 大野町 | 野古墳群 | 古墳 | 古墳 | 大野町教育委員会生涯学習課 |
| 11 | 大野町 | 上磯古墳群 | 古墳 | 古墳 | 大野町教育委員会生涯学習課 |

メ モ



©岐阜県